

医療法人
シーエムエス

杉循環器科内科病院 広報誌

TAKE FREE

Vol.31

2026年 秋号

ウォームハート



心不全再入院 予防チーム

リハビリテーション室
心不全療養指導士
菅原 千遥

心不全とは、心臓の働きが低下することで、息切れやむくみなどの症状が起こり、徐々に進行する生命に関わる病気です。良くなったり悪くなったりを繰り返しながら、全身の筋力や体力が段階的に低下していきます。現在、日本では120万人以上が心不全を抱えているとされ、今後も患者数の増加が見込まれています。

高血圧や心筋梗塞、弁膜症などの病気から心不全へ移行しないように予防することはもちろん、心不全になった後も、再び悪化して入院することを防ぐために、日々の生活を見直すことが大切です。

血圧や体重を管理する、塩分を控える、薬をきちんと服用する、適度な運動を行うなど、毎日の生活習慣が心不全の再発予防につながります。

そこで当院では、心不全再入院予防チームにて多職種で患者さんをサポートしています。チームは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、社会福祉士、医療事務で構成されています。週1回のカンファレンスでは、患者さん一人ひとりの心不全の原因や生活背景を確認し、再入院を防ぐために何が重要かを話し合っています。

入院中には、生活指導、栄養指導、服薬指導、リハビリテーションなど、それぞれの専門性を生かした支援を行っています。また、退院後も安心して生活が続けられるよう、生活状況を確認し、必要に応じて支援を行っています。

心不全は繰り返しやすい病気ですが、毎日の生活の中で気を付けることで、悪化や再入院を防ぐことができます。心不全について不安なことや気になることがありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

外国人スタッフとともに支える、 これからの地域医療

このたび、FNNプライムオンライン(テレビ西日本)にて、当院の外国人スタッフの受け入れや、医療現場での取り組みについて紹介されました。

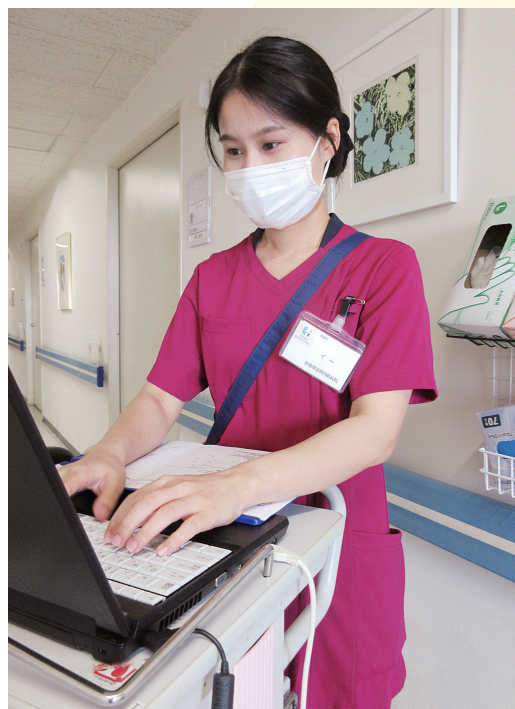
今回の記事では、「看護師不足解消へ 医療現場のいま」という特集の中で、深刻化する医療現場の人材不足を背景に、外国人スタッフが地域医療を支える姿が取り上げられています。その中で、当院で働くミャンマー人スタッフにも密着取材が行われました。

現在、当院では6名のミャンマー人スタッフが看護スタッフとして勤務しています。その一人が、2026年に准看護師試験に合格したイー・ライライ・コンさんです。

イーさんはミャンマーの大学を卒業後、日本の看護師資格を取得することを目指し、福岡県の養成事業を活用して2024年に来日しました。日本での生活や仕事に慣れるだけでも大変な中、日本語を学び、医療について勉強しながら、一歩ずつ経験を積み重ねてきました。現在では、患者さんとのコミュニケーションも自然に行えるようになり、95歳の患者さんとの会話の様子も今回の取材で紹介されています。

「どうですか？変わらないですか？苦しさとかなかったですか？リハビリに行かれましたか？」

患者さんの状態を気遣いながら声をかける姿からは、日々の仕事に真摯に向き合っていることが伝わってきます。



日本で看護を学び、資格取得を目指して

イーさんが日本に来た大きな目的は、看護師になること。来日後、仕事と勉強を両立しながら学び続け、念願だった准看護師資格を取得しました。

しかし、准看護師資格を取得したことで、すべての目標が達成されたわけではありません。現在は、看護師国家試験への合格を目指して、仕事を終えた後に看護学校へ通っています。朝から夕方まで病院で仕事をし、その後、学校で授業を受ける毎日。記事の中では、イーさんが「朝から、午前7時から午後4時まで仕事。眠い…」と話しながらも、「集中しないと全部、分からないので」と勉強に向き合う姿が紹介されています。看護学校では、微生物学や感染症など、看護師になるために必要な専門的な知識を学んでいます。仕事と学校を終えて帰宅するのは夜遅くなることもあり、その後も国家試験に向けた勉強を続けています。決して楽な道のりではありません。

それでも、「自分のため、そして家族のため」という思いを胸に、看護師という目標に向かって努力を続けています。

当院が外国人スタッフを受け入れる理由

当院が外国人スタッフの受け入れを積極的に進めている背景には、地域医療を取り巻く人材不足があります。当院は循環器を専門とする病院として、24時間救急患者を受け入れています。いつ、どのような状態の患者さんが搬送されてくるか分からない医療現場では、十分な人材を確保することが重要です。

一方で、看護職員の確保は決して容易ではありません。そこで当院では、国籍だけで人を判断するのではなく、「医療の仕事に携わりたい」「日本で看護を学びたい」という思いを持つ人たちを受け入れ、一緒に働くという選択をしてきました。

ミャンマー人スタッフは、仕事を覚えることはもちろん、日本語で患者さんとコミュニケーションを取ることに一生懸命取り組んでいます。初めて日本で暮らす中では、仕事だけでなく、住居や生活習慣、文化の違いなど、さまざまな困難があります。

そのため当院では、仕事の場面だけでなく、安心して日本で生活できるよう、住居の準備など生活面についてもサポートを行っています。今回の記事でも、当院が外国人スタッフのために用意した住居で生活する様子が紹介されました。

「働く仲間」として、ともに成長する

外国人スタッフを受け入れることは、単に人材不足を補うためだけのものではありません。私たちにとっては、一緒に働く仲間として、お互いに学び、成長していく機会でもあります。日本とは異なる文化や環境で育ってきたスタッフと一緒に働くことで、私たち日本人スタッフにとっても、新しい考え方や価値観に触れる機会が増えました。

もちろん、言葉や文化の違いから、最初からすべてがスムーズに進むわけではありません。伝え方を工夫したり、分からないことを一つひとつ確認したりしながら、少しずつ信頼関係を築いていくことが大切です。患者さんに安心して医療を受けていただくという目標は、国籍が違って同じです。

「患者さんのために」という共通の思いを持って働くことで、スタッフ同士のつながりも少しずつ深まっています。

4年という壁

今回の記事では、外国人准看護師が抱える制度上の課題についても取り上げられています。現在の制度では、外国人の准看護師が日本に在留できる期間には最長4年という制限があります。4年を超えて日本で働き続けるためには、看護師国家試験に合格するなど、別の条件を満たす必要があります。つまり、准看護師として働きながら、限られた期間の中で看護師国家試験に合格しなければならないということです。

看護師国家試験は、日本人にとっても決して簡単な試験ではありません。専門的な知識を3年間かけて学んで受験する試験であり、外国人にとっては、さらに日本語という大きなハードルもあります。記事の中で大牟田医師会看護専門学校の富安信夫校長は、外国人が看護師国家試験に挑戦することについて、その難しさを指摘しています。

また、福岡県医師会からも「4年では余裕がない」との声が紹介されています。せっかく日本で学び、准看護師として現場で経験を積んでも、在留期間の制限によって帰国せざるを得なくなる可能性があります。イーさんも、「自分が学んできた准看護師の知識だったり、それがもったいない」と、制度への思いを語っています。これは、本人にとってだけでなく、医療現場にとっても大きな課題です。

それでも、目標に向かって

さまざまな課題がある中でも、イーさんをはじめとする外国人スタッフは、日々の仕事と勉強を続けています。

「日本の医療を学びたい」

「看護師国家試験に合格したい」

「日本でできるだけ長く働きたい」

それぞれが持つ夢や目標は、仕事への大きな原動力になっています。

そして、その頑張りを支えるのは、本人たちの努力だけではありません。一緒に働くスタッフ、学校の先生、地域の方々、そして生活を支える周囲の人たち。多くの人のつながりがあってこそ、日本での生活や学びを続けることができます。

当院としても、一人ひとりのスタッフが安心して働き、学び、それぞれの目標を実現できるよう、これからも支えていきたいと考えています。



地域医療を、みんなで支える

少子高齢化や人材不足など、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。これからの地域医療を守っていくためには、さまざまな人材が、それぞれの力を発揮できる環境をつくっていくことが重要です。

外国人スタッフも、地域医療を支える大切な仲間の一人です。国籍や生まれ育った場所が違っていても、患者さんの健康を支えたいという気持ちは同じです。当院では、これからもスタッフ一人ひとりを大切にしながら、互いに支え合い、学び合える職場づくりを進めていきます。

今回の報道を通して、当院で働く外国人スタッフの姿や、医療を支えるために日々努力している姿を、地域の皆さまにも知っていただければ幸いです。そして、夢に向かって努力するスタッフを、病院全体で応援していきたいと思います。

FNNプライムオンラインで紹介されました

今回の記事では、当院の外国人スタッフの働く姿や、看護師を目指して学ぶ姿、そして外国人准看護師を取り巻く制度上の課題について詳しく紹介されています。ぜひ、実際の記事もご覧ください。

「看護師不足解消へ 医療現場のいま 3分の1が“外国人” Vol.2
ミャンマー人准看護師 期間は“最長4年” 在留期間の課題は【福岡発】」

FNNプライムオンライン/テレビ西日本 2026年5月31日掲載





医療法人シーエムエス

杉循環器科内科病院

〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1 (誠修高校前)

TEL:0944-56-1119 FAX:0944-56-2077

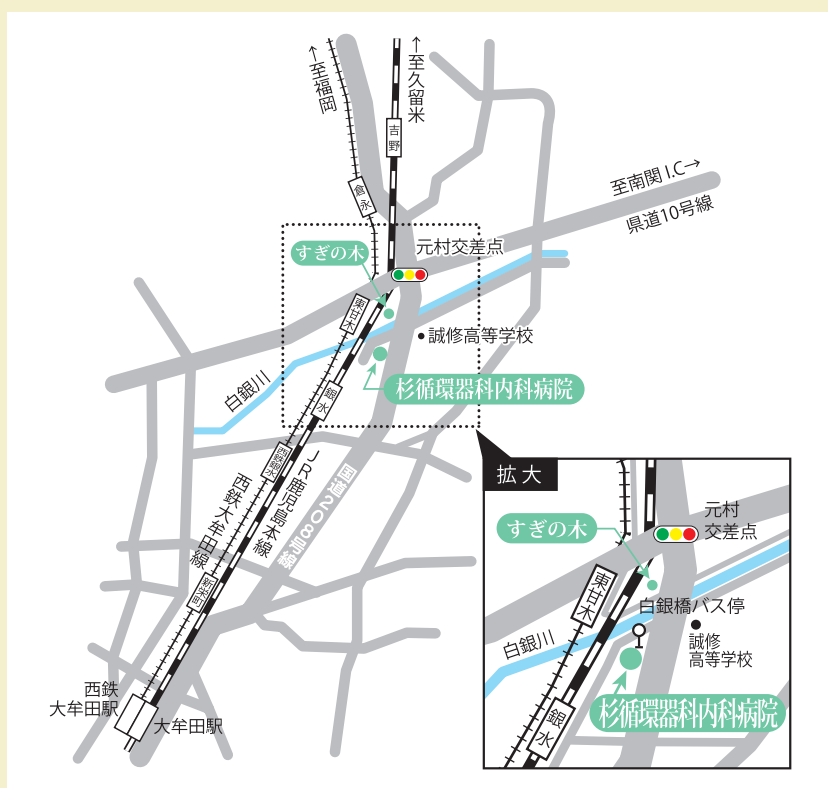
E-mail:info@sugi-hosp.jp

URL http://sugi-hosp.jp



交通のご案内

- JR大牟田駅よりバスで約15分
- 西鉄新栄町よりバスで約10分
- JR大牟田駅よりタクシーで約8分
- 西鉄新栄町よりタクシーで約7分
- 九州新幹線 新大牟田駅より
タクシーで約5分



関連施設

介護事業部

介護老人保健施設 ハッピーランド

〒837-0914 福岡県大牟田市大字宮部172-1 TEL:0944-51-0556

介護事業部

介護付有料老人ホーム セーヌ大牟田

〒837-0914 福岡県大牟田市宮部174-1 TEL:0120-605-825

介護事業部

デイサービスセンター みやべ

〒837-0914 福岡県大牟田市宮部174-1 TEL:0944-51-0226



社会福祉法人 木犀会

特別養護老人ホーム すぎの木

〒837-0905 大牟田市大字甘木44-1 TEL:0944-58-1112



社会福祉法人 木犀会

ケアハウス やぶつばき

- デイサービスセンター
- 介護予防・相談センター
- 小規模多機能ホーム こどう
- ホームヘルプサービス
- ケアプランセンター
- 地域交流センター ばるす

〒836-0897 大牟田市青葉町130-2 TEL:0944-55-6666